

「むくげの会」新春合宿の報告

—2005 年 1 月 15 ~ 16 日—

<「むくげ通信」208号>

信長正義 / 飛田雄一

合宿日の数日前、新潟中越地方をはじめ北国は大雪であった。そして週間天気予報は合宿日もまた大雪であると報じていた。われわれは数年前の天橋立合宿時に大雪で難渋したことを思い出していた。今回も雪の多い湖東・湖北地方を訪ねてみようと思ったからである。しかし当日はやや暖かく、13 時 30 分に近江八幡駅に着くと雨が降り出していた。しかも佐久間が来ないどころか、電話すると家にいた。パソコンが壊れて音信不通だったとか。急いで宿泊場所に向かうとの返事であった。

飛田が借りたレンタカーにはカーナビが装着していたので、その後の各所めぐりがとても楽であった。その上、寺岡が拡大した遺跡分布図と説明書きを持参したので、準備は万全であった。先ず 8 号線を下って<鏡神社>に向かった。



鏡神社は 8 号線沿いにあり、入口の鳥居近くの雰囲気比べ境内は思ったよりも大きかったが住人はいなかった。鏡神社本殿は重要文化財に指定されている。祭神は新羅の王子・天日槍（あめのひぼこ）で、現在の竜王町鏡・野洲町篠原一体の須恵器窯跡との関係が伝承されている。しかし神社の案内にはそれらしい説明文はなかった。

次に、<苗村（なむら）神社>に向かった。「開運招福の神・子供の守護神」と書かれていて、多くの人がお参りしていた大きな神社であった。交通の便がよければもっと多くの

人の参拝があるだろう。道路をはさんで東側にある東本殿は重要文化財で、西側の



本殿は1308年の建築で国宝に指定されている。祭神は天日槍の従者で、近辺を開拓して神社を創建した那牟羅彦と那牟羅姫である。

このあと、雪野山古墳広場に行き、「八幡社



46 号墳」を見に行った。高さ 4 ~ 5 メートルの細長い前方

後円墳で 3 つの入口があり、一つは少し屈めば入ることができた（写真上）。中は 4 畳半ぐらいの大きさで横穴式石室であった。一つの入口には鉄柵で鍵がかけられている。2 号石室で、特異な L 字形のものである。こうした横穴式石室墳は 5 世紀に朝鮮半島から北九州に伝わり、近畿にも伝わったと言われている。ついでに近くの古墳を見ようということになり、名神高速道の近くにある「天乞山（あまこいやま）古墳」を見にいった。雪野山古墳群は周辺は整備されているものの、古墳そのものはそのままにしておいた感じがする。しかし天乞山古墳は復元製作したばかりの、そし

て壮大なものであった。「葬られた墓墳が、長さ9.5m・幅5.5mの規模であったことと天井石の形からみて、長さ6～8メートルの長大な竪穴式石室の埋葬施設があったと推測される」という説明文があった。

●

次に我々は<石塔寺(いしどうじ)>に向かった。



石塔寺がある蒲生郡は5～6世紀に朝鮮半島からの渡来人が多く定着した所である。入場料一人当り300円を払って貰ったパンフレットには「阿育王山(あしょかおうざん)石塔寺」とある。その説明文には「山上の阿育王塔(三重石塔)は、インドの阿育王が、仏法興隆のために…」世界中にばらまいた仏舎利のひとつとされ、鎌倉時代には参拝者が王塔の周りに五輪塔や石仏を奉納するようになったが、織田信長の焼き討ちで伽藍等が焼失し、石仏等は散乱・埋没したとある。この三重石塔は高さ7.17mで三重石塔としては最大で、最も古い遺品と言われているが、ここでも朝鮮との関わりは述べられていない。『滋賀のなかの朝鮮』(明石書店)によれば「石塔寺のルーツを、百済の都であった忠清道扶余の定林寺五層石塔に置くことは、多くの研究者が認めている」とあり、また寺岡が持ってきた説明文には「その形態と当時の花崗岩を加工する技術から考え、まさに渡来人の産物以外考えようがない」とある。前日の大雪であちこちに残雪があった。この辺りは湖東地方

昨年も多くの人をゲストに迎えて多くのことを学びました。感謝申し上げます。

1月20日 中西智子「韓国で働く日本語教師—2001年9月からの私の経験から」

2月17日 小山師人「メディアと市民の狭間で」

3月16日 堀添伸一郎「第三代民議院選挙の歴史的意義について - 自由党の初期内部抗争を中心に」

5月25日 森脇敦子「私の戦争体験—戦後の北朝鮮のことなど」

7月6日 牧野由紀子「インドのこと」

9月21日 橋本菜美「菜美の日韓合同ワークキャンプ報告」

11月2日 本岡拓也「神戸市長田区湊川大橋バラック住宅地区の形成からその撤去まで、そしてその後」

の有数の豪雪地帯である。

●



次に向かったのが<鬼室神社>であった。日野町小野(この)というとても小さな集落にある「鬼室神社」

はカーナビにも出てこない小さな神社であった。日野町小野を目標に走った。近づいてくると、道案内の立札が出てくるが日本語と同時にハングルで「キシルシンサ」と書かれている。恐らく多くの韓国人も訪れるのであろう。本殿裏に50cmほどの柱石がある。「鬼室集斯」の墓碑である。「天智天皇8年(669)に百済の男女700余人とともに近江国蒲生郡に移され」と『日本書紀』にあり、集斯が百済出身であることが分かる。彼は近江朝廷の学識頭(ふみのつかさのかみ)に任ぜられた。神社が大変よく整備されているところを見ると、子孫か村人の信仰が篤いことが分かる。

日が暮れたので、一路長浜の国民宿舎に向かった。佐久間とお酒と鴨すきが待っていた。食後、「04年の反省と05年の展望」を各自が語る時間となった。

●

佐々木...昨年『焼肉の文化史』(明石書店)を出し、19の新聞に取り上げられた。この5月には『韓国の食生活文化の歴史』が出版される。今年は翻訳本と「キムチ」に関する本を出すために努力する。

信長...昨年原州を訪問した時に、韓国キリスト教が有機農業を通して、生産者としての農村教会と消費者としての都市教会との生命共同体を作ろうと努力していることを学び、その資料を集めようとしているが、サボっている。

寺岡...『むくげ通信』に書いた古いものは段々価値が下がってきた。10年前に本にすれば価値があった。新しいものとして散歩風に「摂津」をテーマに本を出すよう、せっつかれたので頑張りたい。

佐久間...昨年末に勤め先を退職した(一同びっくり)。同じマンションに引越す予定なので5000冊はある蔵書のカatalogを作りたい。パソコンを新しく買い換えて3ヶ月以内に作る。時間ができれば延辺に久しぶりに行きたい。



フルメンバーの8名です

山根...約束していた『むくげ愛唱歌集』を作らなかった。少し改訂して著作権の問題もありあのまま復刻してはどうか。韓国の80年代・90年代を中心とした歌謡曲の歌集を出したい。また通訳のプロになりたいと思っている。

堀内...CDのデータ・ベース二万数千件にど

れだけ時間がかかったか。『三千里』『青丘』などの目次がまだ入っていないので誰か手伝って欲しい。研究テーマである「兵庫県の在日朝鮮人」「植民治下の中国人労働者」を今年中にまとめ、来年には「むくげ叢書」として出したい。

深田...11月に通信のメインを書いたが、初めてだったので難しかった。初めてとしては良くできたと思う。韓国の障がい者のスポーツに関して日本に紹介する必要があるのではないか。

飛田...地震から10年、外国人のことを再度取り上げてみたい。通信は旅行記とデジカメでもっているようなもの。むくげの会や通信と出会う人々を大事にしたい。(以上 信長正義)

●

さて翌日、またもカーナビだよりで「東アジア交流ハウス高月町雨森芳洲庵」に向かう。信長は教会の用事で朝食後に帰ることになり記者が飛田に交替する。



雨森芳洲はよく知られた朝鮮通信使の時代の対馬の役人。館長の平井茂彦さんが案内をしてくださった。

氏は最近「雨森芳洲のことを書いた簡単は本はないのですか」という来館者の要望に答えて『雨森芳洲』(サンライズ出版、1000円)をだされた。コンパクトにまとめられたいい本だ。

●



ながら誰も降りてこなかった。

高月町まで来たら余呉湖だと湖を車で一周。次頁の写真は天女伝説の松の木。残念



●
益々快調なドライブは次に日撫神社へ。

当初の予定に入っていなかったが、これもカーナビのおかげで無事到着。看板には「当地は、神功皇后の祖先代々住まれし地なると以て、皇后此の地を慕い給う事深く、三韓より凱陣し給うや、此の地に祠を建て」など書いてある。思いがけないほどなかなかいい神社であった。

そして次は山津照神社。これがまた自然ないい神社である。敷地内の古墳は約 63M の前方後円墳で須恵器なども出土している。



●
さらに阿自岐神社を訪ねる。この阿自岐の郷は、「安食西は古くから伝えられているように、応神天皇（西暦

285 年）、渡来人阿自岐氏によって拓（ひら）かれた由緒ある土地である」と書かれていた。

●
湖三山（西明寺、金剛輪寺、百済寺）も総なめという話もあったが、今回は金剛輪寺だけ訪問した。行基によって 741 年に開山さ



れたもので、本堂は信長の焼討ちも免れた 700 年の歴史をもつものである。行基作と伝えられる観音菩薩もある。付設博物館も訪ねた。庭が素敵だったし、本堂までの山道もとてもよかった。地蔵さんがほんとに沢山あった。

●
そして残り二つの寺をパスして望んだのが最後のメインイベント「高麗寺」。カーナビでもこれは苦労した。実はつれあいの実家のすぐ近くで、車で近くを通ったこともあるが全く知らなかった。朝鮮関係のガイドブックにも探しにくいとあった。車であたりをぐるぐる回ったり、民家を訪ねて場所を聞いたりしてようやくたどり着いた。住職さんは不在だったが近所の人のお話では尼さんがひとりおられるとのことであった。観光客が多くなったのか、建物以上に立派な石は 1992 年に作られたものである。かくして充実した 2 日間は終了したのでありました。（飛田）

